

原稿正本



原稿

使徒

ヨハネ使徒行傳初384此間383ナシ

原稿

第一章

一 テオピロよ、我ききに前の書をつくりて、凡そイ  
 ニ エスの行ひはじめ教へはじめ給ひしより、その選  
 ビたまへる使徒たちに、聖靈によりて命じたるのち、  
 三 擧げられ給ひし日に、<sup>全</sup>たるまでの事を記せり。イ  
 エスは苦難をうけしのみち、多くの慥なる證をもて、己  
 の活きたることを使徒たちに示し、四十日の間、<sup>あひだし</sup>屢かに  
 四 れらに現れて、神の國のことを語り、また彼らと共に  
 五 より聞きし父の約束を待て。ヨハネは水にて、<sup>バ</sup>バ  
 \*或は「食しと認す」に現れて

聖書改譯原稿用紙

テスマを施し、が、汝らは日ならずして聖靈にてバ  
 六 プテスマを施されん、弟子たち集れる時、問ひて言  
 七 か、「イエス言ひ給ふ時、また期は父おのれの權威の  
 八 うちに置き給へば、汝らの知るべきにあらず。  
 九 ど聖靈、汝らの上に臨むとき、汝ら能力をうけん、而し  
 てエルサレム、ユダヤ全國、サマリヤ、及び地の極にま  
 九 で我が證人とならん、此等のことを言終りて、彼ら  
 の見るがうちに擧げられ給ふ。雲、これを受けて見え  
 十 ざらしめたり。その昇りゆき給ふとき、彼ら天に目

\*約十五町に当る  
澤中

共に

臍

一 注ぎめたりしに、視よ、白き衣を着たる二人の人か  
 二 たはらに立ちて言ふ、  
 三 仰ぎて立つか、汝らを離れて天に擧げられ給ひし  
 四 此のイエスは、汝らが天に昇りゆくを見たるその如く  
 五 復きたり給はん  
 六 エルサレムに歸る。この山はエルサレムに近く、安息  
 七 日の道程なり。既に入りてその留りをる千階坐敷  
 八 に登る。ペテロ、ヨハネ、ヤコブ及びアンデレ、ピリポ及  
 九 ビトマス、バルトロマイ及びマタイ、アルパオの子ヤ  
 十 コブ、熱心黨のシモン及びヤコブの子ユダなり。こ  
 十一 の人々はみな女たち及びイエスの母マリヤ、イエス  
 十二 の兄弟たちと、**別行**に心を一つにして、**只管**祈禱を務め  
 十三 りて群をなせる兄弟たちの中に立ちて言ふ、  
 十四 兄弟よ、イエスを捕ふる者どもの手引をならしユダ  
 十五 につきて聖霊ダビデの口によりて預め言ひ給ひし  
 十六 聖書は、必ず成就せざるを得ざりしなり。彼は我ら  
 十七 中に數へられ、此**臍**に與りたればなり。この人はか  
 十八 の價をもて地所を得、また俯伏に墜ちて直中より裂  
 十九 けて、臍みな流れ出でたり。この事エルサレムに住

聖書改譯原稿用紙

二 凡ての人に知られて、その地所は國語にてアケル  
三 ダマと稱へらる、血の地所との義なり。それは詩篇  
に録して

二五下

可 かれの住處は荒れ果てよ、  
人その中に住はざれ

二五下

三 三 と云ひ又  
三 三 と云ひたり。然れば主イエス我等のうち  
に往來し給  
を離れて擧げられ給ひし日に至るまで、常に我ら  
即ちヨハネのバプテスマより始まり、我ら

聖書改譯原稿用紙

二 借に在りしこの人々のうち一人、われらと共に主の  
復活の證人となるべきなり。爰にバルサバと稱へ

二五

二 職とより墮ちたれば、その後を継がするに、此二人の  
うち孰を選び給ふか示したまへ。斯て闡せしに闡  
はマツテヤに當りたれば、彼は十一の使徒に加へら  
れたり。

第二章

天より起りて

敬虔

おのこの

五旬節の日となり彼らみな一處に集ひ居りし  
烈しき風の吹ききたるごとき響に天よりお  
こりてその坐する所の家に満ちまた火の如きも  
の舌のやうにあらはれ分れて各人のうへに止まる

彼らみな聖靈にて満され御霊の宜べしむるま  
に異邦の言にて語りはじむ時に敬虔なるユダヤ  
人ら天下の國々より來りてエルサレムに住み居り

しがこの音おこりたれば群衆あつまり來りおの  
己が國語にて使徒たちの語るを聞きて騒ぎ合ひ

かつ驚き怪しみて言ふ視よこの語る者は皆  
ハラヤ人ならずや如何して我等おのの生れし國

の語をくか我等はパルテア人メデア人エラム人  
またメソポタミア、ユダヤ、カバドキア、ポント、アジア

フリギア、パンフリア、エジプト、リビアのクレネに  
近き地方などに住む者口マよりの旅人、ユダヤ人及

改宗者、クレテ人及びアラビア人なるに我が國  
言にて彼らが神の大なる御業をかたるを聞き

はみな驚き惑ひて互に言ふ可これ何事を  
もは嘲りて言ふ彼らは甘き葡萄酒にて満たされた

聖書改譯原稿用紙

別行  
り 爰にペテロ十一の使徒と共に立ち、聲を揚げ宣  
べて言ふ。

「ユダヤの人々および凡てエルサレムに住める  
者よ、汝らわが言に耳を傾けて、この事を知れ。今は  
朝の九時なれば、汝らの思ふ如く、彼らは酔ひたるに  
非ず、これは預言者ヨエルによりて言れたる所なり。

神いひ給はく、末の世に至りて、  
我が靈を凡ての人に注がん。  
汝らの子女は預言し、

聖書改譯原稿用紙

汝らの若物は幻影を見、  
汝らの老人は夢を見るべし。

その世に至りて、わが  
我が靈を注がん、彼らは預言すべし。  
我上は天に不思議を

下は地に徴を現さん、  
即ち血と煙の氣とあるべし。  
主の大なる顯赫日の来る前に

日は闇に月は血に變らん。  
すべて主の御名を呼び頼む者は救はれん

わが僕、婢女に

顯著

三 イスラエルの人々よ、これらの言を聴け。ナザレの  
 イエスは、汝らの知るごとく、神かみ彼かれによりて、汝らの中  
 に行いひ給たまひし能力ちからある業わざと不思議ふしぎと徴しるしとを以もつて、汝  
 らに證あかしし給たまへる人ひとなり。この人は神かみの定め給たまひし  
 御旨みむねと預あらかじめ知り給たまふ所ところによりて付たされしか、汝  
 ら不法ふへふの人の手をもて、磔はりつけにして殺ころせり。然しかと神かみは  
 死しの苦難くるしみを解ときて之これを魁よみがへらせ給たまへり。彼かれは死しに繫つながれ  
 をるべき者ものなまざりしなり。ダビデ彼かれにつきて言い  
 ふ。

「われ常に我が前に主を見たり。」

聖書改譯原稿用紙

二六 我あが動うごかれぬ為ために、我あが右みぎに在いませばなり。  
 この故ゆゑに、我あが心こころは樂たのしみ、我あが舌したは喜よろこべり、  
 且かつわが肉にく体たいもまた望のぞみの中なかに宿やどらん。  
 汝なんぢわが靈たま魂ひを黄泉よみに棄すて置おかず。  
 汝なんぢは聖しやう者じやの朽果くちはてることことを許ゆるし給たまはざればなり。  
 汝なんぢは生いのち命いのちの道みちを我あれに示しめし給たまへり、  
 御顔みかほの前まへにて、我あれに樂たのしみを満みし給たまはん、  
 人ひと々みな兄弟きやう弟ていよ、先せん祖ぞダビデに就つきて、我あれ憚はからず汝なんぢらに  
 言いふを得うべし。彼かれは死しにて葬はうむられ、其墓そのはかは今日こんにちに至いたる  
 まで、我あれらの中うちにあり。然しかば、彼かれは預言者よげんしやにして、己おのれの

人

山下同ジ

敵を

我が右に坐せ

悔改めよ

悔改めよ

身より出づる者を己の位に坐せしむることを誓をも  
 て神の約し給ひしを知り、先見して、キリストの復  
 活に就きて語り、その黄泉に棄て置かれず、その肉體  
 の朽果てぬことを言へるなり。神はこのイエスを  
 甦らせ給へり、我らは皆その證人なり。イエスは神  
 の右に擧げられ、約束の聖靈を父より受けて、汝らの  
 見聞きするこの者を注ぎ給ひしなり。それダビデ  
 は天に昇りしことなし、然ど自ら言ふ、  
 「主わが主に言ひ給ふ、  
 汝の仇を汝の足臺となすまで、は  
 我が右に坐せよ」  
 然ればイスラエルの全家は確と知るべきなり。汝  
 らが十字架に釘けし此イエスを神は立て、主とな  
 し、キリストとなし給へり。人々これを聞き、心を  
 刺され、ペテロと他の人々、「人々」に言ふ、「兄弟よ、  
我ら何をなすべきか、」  
ペテロ答ふ、「汝ら悔改めて各  
 自罪の赦を得ん爲に、イエスキリストの名によりて  
 バプテスマを受けよ、然ば聖靈の賜物を受けん。この  
 約束は汝らと汝らの子等と凡ての遠き者、即ち主な  
 る我らの神の召し給ふ者とに屬くなり、この他な

聖書改譯原稿用紙

只管つとむ

日々心を

弛みなく

弛みなく

ほ多くの言を以て證し、且勧めて此の曲れる世より  
救ひ出されよと言へり。斯てペテロの言を聴納れ

し者はバプテスマを受く。此日弟子に加はりたる者  
凡そ三千人なり。彼らは常は使徒たちの教訓受

け、交際をなし、パンを擘き祈禱をなすことをひたす  
ら務む。爰に人みな敬畏を生じ、多くの不思議と徴

とは使徒たちに藉りて行はれたり。信じたる者は  
みな共に居りて諸般の物を共にし、資産と所有と

を賣り各人の用に從ひて分け與へ、日々心を一つ  
にしてたゆみなく宮に居り、家にてパンをさき、歡喜

聖書改譯原稿用紙

と真心とを以て食事をなし、神を讚美して一般の  
民に悦ばる。斯て主は救はるゝ者を日々彼らの中に

加へ給へり。